

令和2年3月12日

学校法人近畿大学 御中

文部科学省研究開発局原子力課

国際原子力人材育成イニシアティブ事業 事後評価結果について

貴機関において実施された「国際原子力人材育成イニシアティブ事業」に係る事後評価結果を、以下のとおり通知いたします。評価基準等については、別添「国際原子力人材育成イニシアティブ事業 事後評価要領」をご参照願います。

課題名	日韓の教育用原子炉を有効活用した国際原子力実習の開催
実施期間	平成28年度～平成30年度

【評価結果】

S	極めて優れた成果があげられた
---	----------------

【審査評価会所見】

＜推奨意見＞

- 平成30年度に制御棒駆動装置の不具合により原子炉が停止したため、当初計画通りには進められなかったが、韓国の慶熙大学とのこれまでの研究・教育の交流実績を生かして、迅速に同大学での原子炉施設での研修に切り替え実施する等、発展的・継続的に人材育成を行なったことが評価できる。
- 参加した学生の約7割が原子力関連分野に就職していることは特筆すべき状況であり、また本課題で作成した教材は連携機関に配布したほか、要望があれば他大学へも提供する予定とのことで、成果の公開の観点から評価できる。

＜今後への参考意見＞

- この課題では遠隔授業では出来ない実際の研究用原子炉を扱う貴重な体験ができるが、それに伴う旅費を今後どのように担保するか、さらに、原子炉を維持管理していくことについて、多くの問題を抱えている中で、ぜひ継続的な活用を模索してほしい。
- 原子炉の不具合は起こり得るものであり、事象の影響程度に応じた迅速なリカバリーを実現する対応の検討(規制における Graded Approach の原則の採用)が重要であり、この課題で得た知見を踏まえ、規制側との意見交換の実施等を検討していただきたい。